

木工・漆産業による地域産業形成・活性化活動（経常研究／活動報告）

寺門 秀人*

1. はじめに

茨城県は全国第2位の漆産出県であり、その漆は主に県北エリアの奥久慈地域で生産されている。その漆は「奥久慈漆」（図2）と呼ばれ、透明性、光沢度、肉持ち、塗り易さなどで高い評価を得ている良質なものである。しかし、茨城県は漆産出地でありながら、漆工芸産業を保有しないところである。遠い過去には、漆塗の里などが存在した経緯があるが、漆生産が主な産業であった。しかし、その産業も時代の流れと共に衰退が進み、現在では従事者の高齢化や後継者不足の問題が進行し深刻な問題となっている。

また、漆産地でありながら漆器・漆工産地を形成していないため、原料産地に留まり経済効果を生み難い状況におかれている。



（図1）漆畑



（図2）奥久慈漆

2. 課題

- ・漆及び漆製品作りのシステムの構築。
- ・漆の先進的な利用技術の開拓。
- ・販路開拓と後継者・人材確保。

3. 目的

漆生産者と奥久慈地域を活動拠点とした漆工芸作家、木工関連の製造業者のパイプ作りを行い、地域の

活力を活性化し、原材料生産から、物品生産、市場へと、川上から川下までの産業の流れを構築し、地域産業の創出を目指す。

4. 活動内容

4.1 短期的な活動

ものの作りの仕組みづくりと、差別化された地域の製品を創出する。

①有益な資源及び技術を持つ漆生産者と木工企業の連携体構築。

②地域の資源を有効に活用した新製品の開発促進と広報。

③奥久慈漆の利用研究とその評価、優位性の発見。

4.2 長期的な活動

製品の広報及び販路開拓の推進とモノづくりを喚起することで地域に人を集め、原材料生産から販売を含むサイクルを創り、地域産業を構築する。

5. 活動結果

短期的に実行可能なことから取組みを行った。

漆生産者と物品生産者からなる活動組織「奥久慈うるしの郷づくり準備委員会」（図3）、検討会やワークショップ（図4）、漆の広報活動を行った。また具体的なモノ作りに着手した。

5.1 活動組織設置

- ・検討会全9回：課題抽出、モノ作りなど
- ・ワークショップ（講習会2回）
- ・普及PR活動（展示会2回、報道7件）
- ・若手人材の確保（1名）



（図3）委員会

*産業連携室



(図 4) 講習会の風景

5.2 新製品開発

・家具メーカーと地元漆塗技術者による製品開発検討会の実施 (図 5) と試作品作り (図 6)。



(図 5) 試作検討会



(図 6) 試作品

・地域色を加味した新感覚のテーブルウェアの試作品作り。

『H20 年度財団法人地域総合整備財団 新分野進出等企業支援補助事業』(企業申請の支援)

5.3 奥久慈漆の利用研究

産学官の連携体を構築し、漆の差別化・応用利用へ向け、その研究内容及び外部資金獲得に向けての検討を行い、1 件申請を行った。

6. 今後の活動

6.1 漆の利用研究の推進 (産学官)

- ・生産性向上のための乾燥コントロール技術
- ・差別化した塗り技法の開発
- ・他分野への応用技術

6.2 試作品の商品化

- ・生産工程、コスト及び販売価格の適正化
- ・販売形態・販路の検討と開拓
- ・その他新製品開発の推進

6.3 漆及び漆製品の PR・普及活動と人材確保

※ 本活動は、財団法人グリーンふるさと振興機構企業化支援研究会事業の一環で運営されています。